

米軍基地環境カルテ

金武ブルー・ビーチ訓練場(施設番号:FAC6020)

沖 縄 県

改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」の内容を反映させた改訂。
第3版	令和8年2月	「沖縄の米軍基地（令和6年3月沖縄県）」及び「環境白書（平成27年度報告～令和5年度報告沖縄県）」の内容を反映させた改訂。

目 次

18. 金武ブルー・ビーチ訓練場（施設番号：FAC6020）	18-1
18.1 基本情報	18-1
18.1.1 名称	18-1
18.1.2 所在地、広さ（施設面積）	18-1
18.1.3 施設の概要等	18-2
18.1.4 施設の管理及び用途	18-3
18.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	18-3
18.1.6 土地利用規制図	18-3
18.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	18-3
18.2.1 基地等の土地の状況	18-3
18.2.1.1 地形分類図	18-3
18.2.1.2 表層地質図	18-3
18.2.1.3 土壤図	18-3
18.2.1.4 切盛土分布図	18-3
18.2.2 基地内の施設の使用状況	18-4
18.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	18-4
18.2.2.2 施設等使用履歴	18-4
18.3 基地等の環境状況	18-4
18.3.1 自然環境（植物）	18-4
18.3.1.1 現存植生図	18-4
18.3.1.2 植生自然度図	18-4
18.3.1.3 特定植物群落	18-4
18.3.1.4 重要な種、貴重な種等	18-5
18.3.2 自然環境（動物）	18-5
18.3.2.1 重要な種、貴重な種等	18-5
18.3.3 水利用状況	18-5
18.3.3.1 水利用状況	18-5
18.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	18-6
18.3.3.3 河川及びダムの分布状況	18-7
18.3.4 地下水の状況	18-7
18.3.4.1 地下水基盤面等高線図	18-7
18.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	18-7
18.4.1 事故等の概要	18-7
18.4.2 事故等発生場所	18-8
18.5 環境調査を実施する場合の留意事項	18-8
18.6 その他情報	18-8
18.7 環境等に関する通常監視について	18-8

18. 金武ブルー・ビーチ訓練場（施設番号：FAC6020）

18.1 基本情報

18.1.1 名称

金武ブルー・ビーチ訓練場（施設番号：FAC6020）

18.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和 47 年 5 月 15 日>

所在地：金武村字金武

広さ：約 396 千m²

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15 メモ等）（仮訳）」（1972 年 5 月）

（http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf）を参照

<令和 6 年 3 月末現在>

所在地：金武町（字金武）

広さ：381 千m²

地主数：302 人

駐留軍従業員数：一人

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

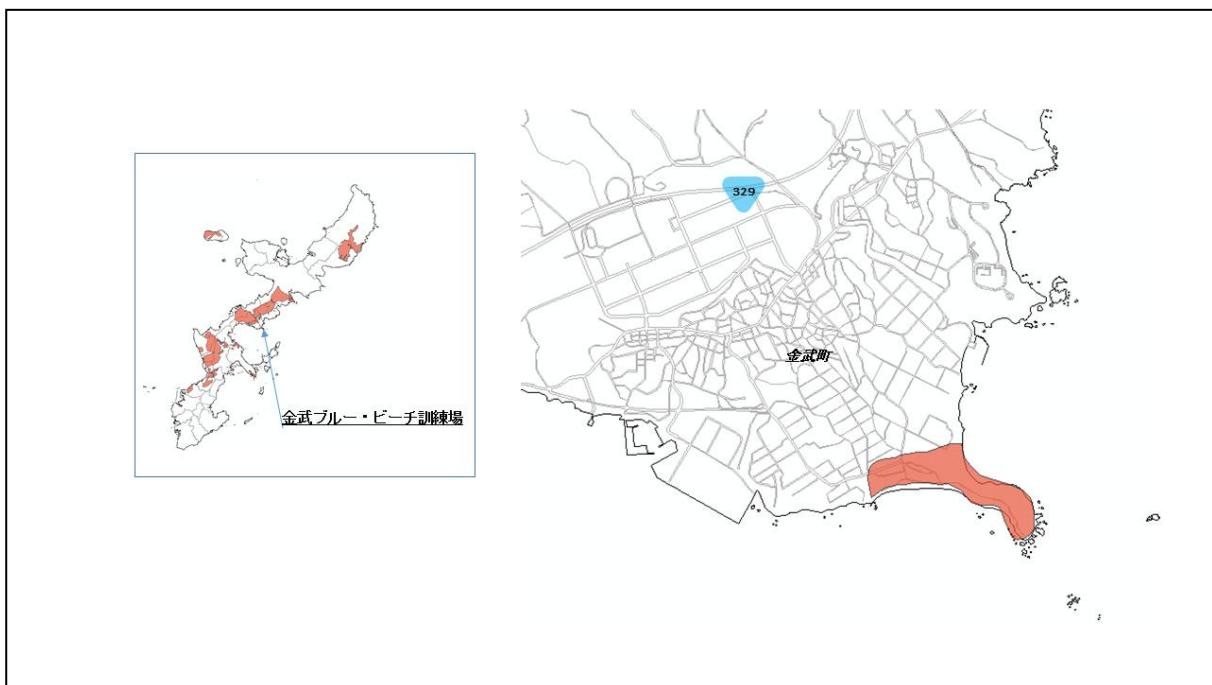


図 18-1 金武ブルー・ビーチ訓練場の位置図（平成 28 年時）

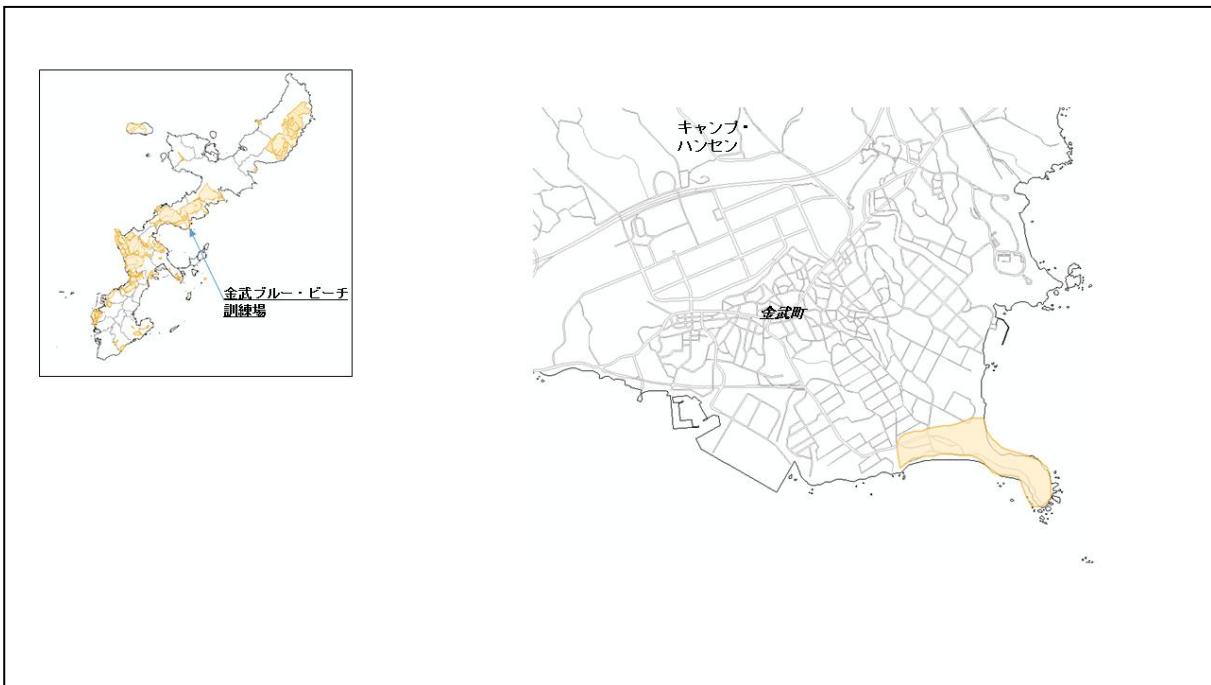


図 18-2 金武ブルー・ビーチ訓練場の位置図（昭和 47 年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

図 18-3 金武ブルー・ビーチ訓練場の航空写真

18.1.3 施設の概要等

金武町並里区の東側、金武岬に位置する海兵隊の訓練場であり、800 ヤード（730 メートル）長の海岸では、上陸用舟艇及びホーバークラフト等を使用した上陸訓練が実施されている。また、水上輸送訓練、上陸訓練、指揮所訓練、通信訓練、米軍ヘリによる離着陸訓練等が行われている。

なお、以前は訓練のない時は、米軍やその家族、地元住民の海水浴場として利用されていたが、現在は立入ができなくなっている。金武町では遊泳できる海岸が限られており、町は海浜の利用

について要望している。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

18.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：米海兵隊太平洋基地在沖米海兵隊基地司令部

使用部隊名：海兵隊ほか

使用主目的：訓練場

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

18.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

<返還計画>

なし。

<跡地利用計画>

策定されていない。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

18.1.6 土地利用規制図

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図B」に示す。

18.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

18.2.1 基地等の土地の状況

18.2.1.1 地形分類図

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図B」に示す。

18.2.1.2 表層地質図

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図B」に示す。

18.2.1.3 土壌図

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の土壌図を図面集「土壌図B」に示す。

18.2.1.4 切盛土分布図

金武ブルー・ビーチ訓練場の切盛土分布図は作成されていない。

18.2.2 基地内の施設の使用状況

18.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

金武ブルー・ビーチ訓練場の施設配置図は確認できなかった。

18.2.2 施設等使用履歴

昭和 34 年 3 月 15 日	米軍の娯楽施設として使用開始。
昭和 38 年 7 月 1 日	「金武ブルー・ビーチ訓練場」として使用開始。
昭和 47 年 5 月 15 日	「金武ブルー・ビーチ訓練場」として提供開始。
昭和 56 年 3 月 31 日	キャンプ・ハンセンとの戦車連絡道が完成。
昭和 57 年 2 月 5 日	交通施設（戦車横断橋）として、土地約 500 m ² と工作物（橋梁）を追加提供。
昭和 58 年 5 月 8 日	米軍が、赤土流出防止のため、土砂どめ柵を設置。
昭和 63 年 7 月 14 日	道路として、工作物（舗床等）を追加提供。
平成 13 年 3 月 31 日	町道用地約 1,300 m ² を返還。
平成 13 年 10 月 24 日	農地改良事業用地約 6,400 m ² を返還。
平成 13 年 10 月 25 日	道路用地として、土地約 3,400 m ² を追加提供。
平成 21 年 11 月 13 日	ヘリコプター着陸帯関連施設として工作物（下水等）を追加提供。
令和 3 年 3 月 31 日	金武バイパス用地等として、土地約 1,500 m ² を返還。
令和 3 年 4 月 1 日	土地約 1,200 m ² を追加提供。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

<主要建物及び工作物>

建 物：-

工作物：着陸帯、保安柵、排水設備など

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

18.3 基地等の環境状況

18.3.1 自然環境（植物）

18.3.1.1 現存植生図

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図 B」に示す。

18.3.1.2 植生自然度図

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図 B」に示す。

18.3.1.3 特定植物群落

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺において、特定植物群落の該当はない。

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

18.3.1.4 重要な種、貴重な種等

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）は確認できなかった。

出典：「～平成 27 年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

18.3.2 自然環境（動物）

18.3.2.1 重要な種、貴重な種等

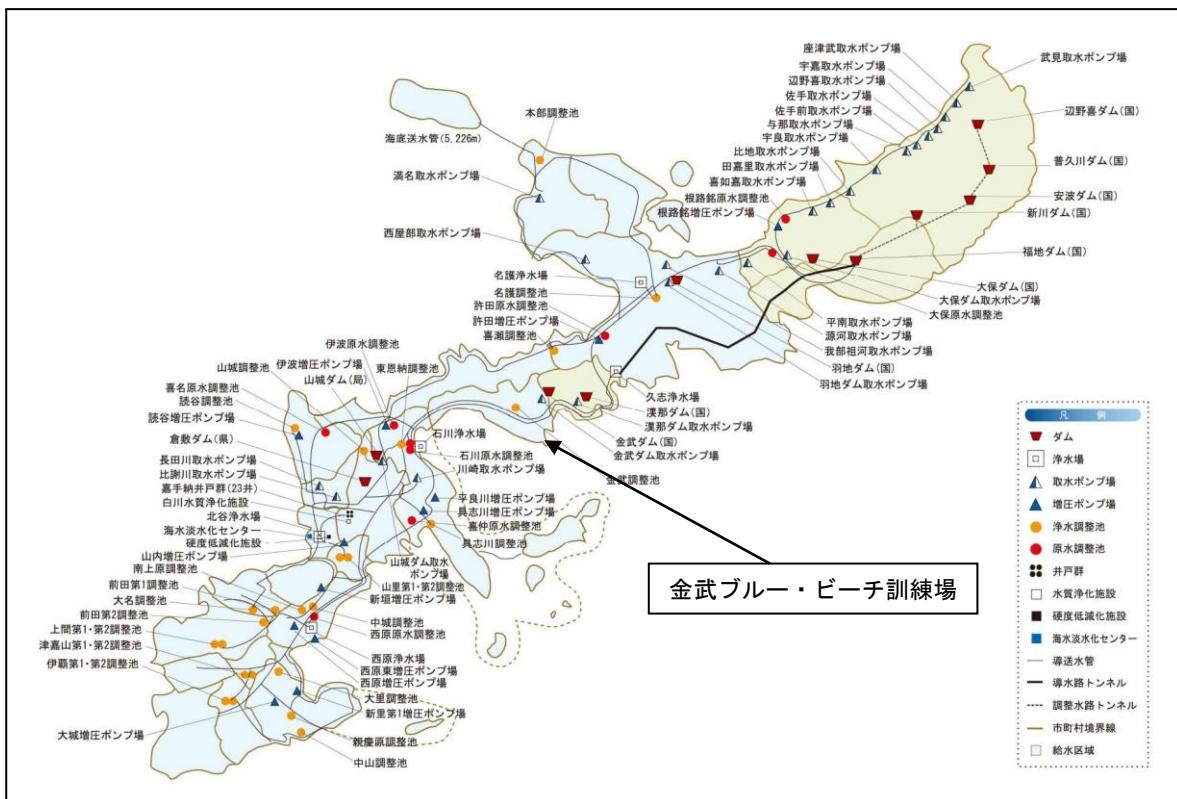
金武ブルー・ビーチ訓練場のある金武町で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は39種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針〔沖縄島編〕」（平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照

18.3.3 水利用状況

18.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図18-4に示す。

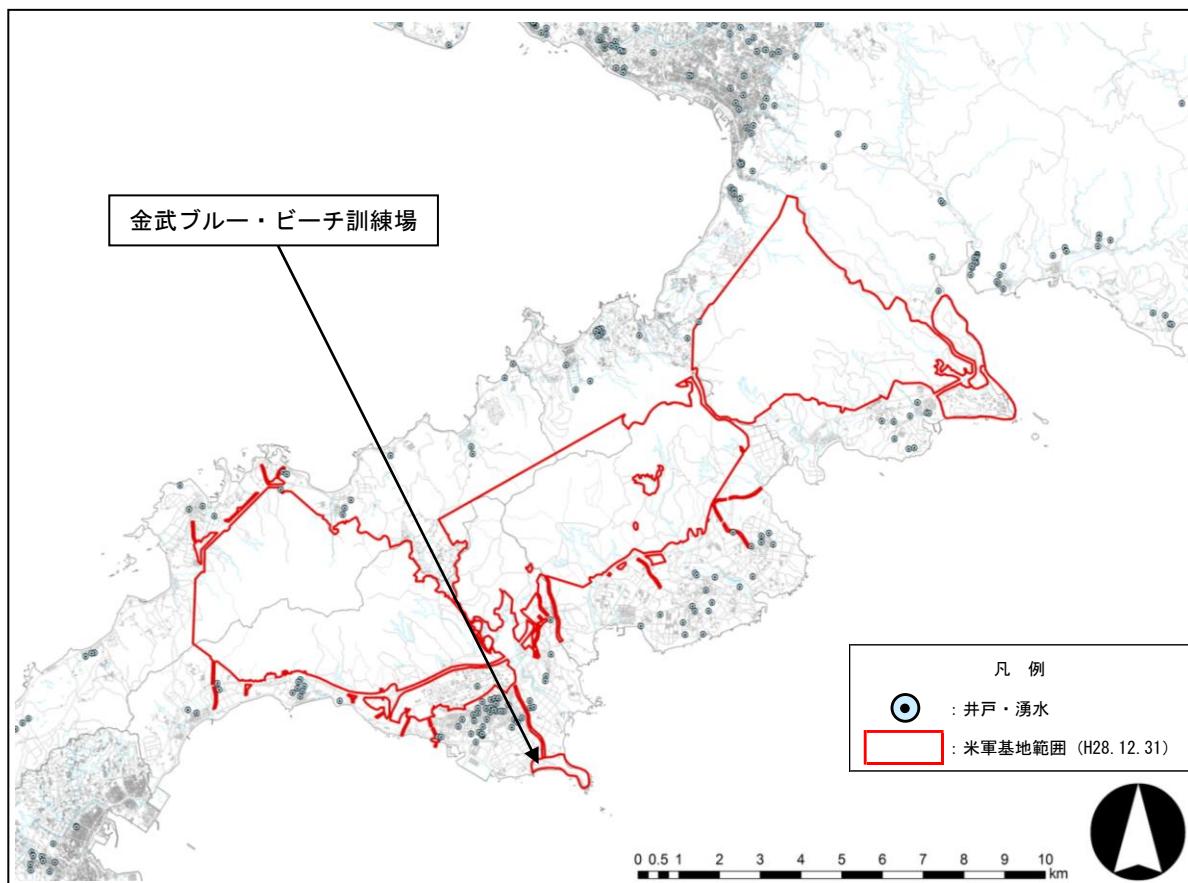


出典：「2015<平成26年度決算版> 環境報告書」（平成28年3月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図 18-4 沖縄島及び周辺の水利用状況

18.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

金武ブルー・ビーチ訓練場の井戸・湧水分布状況を図 18-5 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、 第 269 号）」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、
活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 18-5 金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の井戸・湧水分布状況

18.3.3 河川及びダムの分布状況

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の河川、ダムの分布状況を図 18-6 に示す。金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺に、二級河川、準用河川、国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、 第 301 号）」
出典：「国土地理院地図（平成29年3月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、

「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照

図 18-6 金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の河川、ダム分布状況

18.3.4 地下水の状況

18.3.4.1 地下水基盤面等高線図

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「地下水基盤面等高線図 B」に示す。

18.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

18.4.1 事故等の概要

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の情報は、「沖縄の米軍基地」（沖縄県）、「環境白書」（沖縄県）では確認できなかった。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月～令和 6 年 3 月、沖縄県）、

「環境白書」（平成 24 年度報告～令和 5 年度報告、沖縄県）を参照

18.4.2 事故等発生場所

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の

情報は確認できなかった。

18.5 環境調査を実施する場合の留意事項

金武ブルー・ビーチ訓練場において、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

1 船舶からの油流出等が懸念されることから、周辺海域の底質汚染調査を行う。

18.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局 (National Archives and Records Administration, NARA) (以下、「NARA」と言う。) で収集した在日米軍関係資料のうち、金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 18-1 に示す。

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 18-1 金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺に関する環境関連情報の概要 (NARA 収蔵)

年月日	場所	資料の種類	概要
—	—	文書	金武ブルー・ビーチ訓練場の見取り図が掲載されている。
1959 年 12 月 30 日	—	図・文書	演習場の位置、利用条件等に関する資料。金武レッド・ビーチ訓練場、金武ブルー・ビーチ訓練場とキャンプ・ハンセンの位置関係、金武レッド・ビーチ訓練場には戦車揚陸艦 (LST) が寄港すること、金武ブルー・ビーチ訓練場では上陸艇が使用されていたことが記されている (旧米国陸軍地図局 (U.S. Army Map Service : AMS) 作製の地図と重ねて使用する図面)。

18.7 環境等に関する通常監視について

金武ブルー・ビーチ訓練場及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていない。

出典：「昭和 51 年度版 環境白書」（1977、沖縄県）、
「昭和 53～平成 16 年版 環境白書（昭和 52～平成 15 年度年次報告）」（1978～2005、沖縄県）、
「環境白書【平成 16～26 年度報告】」（2006～2016、沖縄県）を参照